

## あいしまホームヘルパーカレッジ 介護職員初任者研修(通学)開講のお知らせ

<b>研修機関情報</b>	
法人情報	当社ホームページ「あいしまホームヘルパーカレッジ 介護職員初任者研修(通学)」参照
研修機関情報	
<b>研修事業情報</b>	
研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象①介護技術を学ぼうとする就学に支障のない心身共に健康な方             <ul style="list-style-type: none"> <li>②介護に興味があり将来介護事業に従事する意思のある方</li> <li>③現在介護事業に従事している方</li> <li>④原則として横浜市内在住の方</li> </ul> </li> <li>●研修のスケジュール             <ul style="list-style-type: none"> <li>「介護職員初任者研修(通学)」の研修日程表参照</li> </ul> </li> <li>●定員 30名 指導者数 33名</li> <li>●研修受講までの流れ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般公募する。</li> <li>・「介護職員初任者研修指定書」が届いた日より当社ホームページ、タウン誌、新聞折込に募集広告を掲載し、関係機関に案内を開始する。</li> <li>・受講希望者に受講案内(学則含む)と受講申込書を送付、または来社</li> <li>・受講申込書の提出と、受講料振込み確認と公的機関発行の証明書(健康保険証、住民票の写し、運転免許証)で本人確認後、受講決定とする。</li> <li>・定員になり次第締め切りとする。</li> </ul> </li> <li>●費用 受講料 80000円 ・テキスト代 5000円</li> <li>●留意事項 特徴 受講生へのメッセージ             <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の皆様が安心して利用できる看護・介護サービスを提供し、社会に貢献することを目指している(株)アイシマが、介護職員初任者研修を実施する。</li> <li>基本的な知識・技術・態度を修得し、社会に貢献できる介護員を養成する。</li> <li>豊富な講師のもと丁寧な講義、演習を展開するので、安心して研修を受講して下さい。</li> </ul> </li> </ul>
課程責任者	株式会社 アイシマ 看護部 看護部長 野水 千栄子
研修カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●科目別シラバス 「介護職員初任者研修(通学)」の「研修カリキュラム」「研修日程表」「科目別担当講師及び講師情報」参照</li> <li>●科目別担当教官名: 「科目別担当講師及び講師情報」参照</li> <li>●科目別特徴             <ul style="list-style-type: none"> <li>①<b>職務の理解</b> 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」などの実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもって実感し、以降の研修に実践的に取り組めるように展開する。</li> <li>②<b>介護における尊厳の保持・自立支援</b> 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。</li> <li>③<b>介護の基本</b> 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。 介護職を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることが出来るよう展開する。</li> <li>④<b>介護・福祉サービスの理解と医療の連携</b> 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントが列挙できるよう展開する。</li> <li>⑤<b>介護におけるコミュニケーション技術</b> 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なること、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(とるべきでない)行動例を理解する。</li> <li>⑥<b>老化の理解</b> 加齢・老化に伴う心身の変化や疾患について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。</li> <li>⑦<b>認知症の理解</b></li> </ul> </li> </ul>

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則が理解できる。

**⑧障害の理解**

障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

**⑨こころとからだのしくみと生活支援技術**

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。

尊厳を保持し、その人の自立及び自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得できるよう展開する。

**⑩振り返り**

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認をおこなうとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

**演習**

「こころとからだのしくみと生活支援技術」の中の以下の項目に対しては「介護技術チェックリスト」を用いて、実技演習を実施する。

- ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑭総合生活支援技術演習

・備品・指導体制

項目	備品
⑥整容	ベッド・寝巻き・洗面器・タオル等
⑦移動・移乗	ベッド・車椅子・杖等
⑧食事	ベッド・エプロン・トロミ剤等
⑨入浴、清潔	ベッド・スポンジブラシ・ガーゼ(口腔用)・吸い飲み ガーグルベースン・足浴用バケツ・浴槽・滑止マット・シャワーチェアー
⑩排泄	ベッド・オムツ・リハパンツ等・男女用尿器・ポータブルトイレ、タオルケット
⑪睡眠	ベッド・寝具類・床頭台等
⑭総合生活	⑥から⑪より事例により必要備品使用

※ 指導体制は講師1名と補助講師2名で実施する。

実習施設

●協力実習期間の名称 認知症対応型共同生活介護事業所

- ①はなもも 横浜市瀬谷区阿久和南 3-25-1 Tel.045-806-0803
- ②すもも 横浜市瀬谷区阿久和南 2-1 Tel.045-366-7852
- ③あいらんど 横浜市瀬谷区阿久和南 4-11-2 Tel.045-360-9150
- ④やまもも 横浜市泉区和泉町 7737-11 Tel.045-801-7201
- ⑤あんず 横浜市泉区弥生台 45-4 Tel.045-814-9887

●協力実習期間の介護保険事業の概要

ホームページ、「施設ご紹介」参照

●協力実習期間の演習担当者氏名

- ①はなもも 藤平 久美子
- ②すもも 渡辺 英史
- ③あいらんど 増山 香苗
- ④やまもも 伊藤 佳代
- ⑤あんず 秋山 厚子

●実習プログラム内容、特色

平成 25 年 7 月 1 日～25 年 7 月 6 日のうちの 6 時間×2 日＝12 時間で、認知症対応型共同生活介護事業所にて、利用者の介護(食事介助、入浴介助、整容など)の実習を行う。

・日程表の中に「実習オリエンテーション」を組み入れ、実習の課題・問題意識の形成とともに、事故防止・実習記録の書き方など理解する。

・プログラムの特色

- ① 介護に必要な基本的知識・技術・態度等、実習を通して介護の実際と結びつけることができる。
- ② 施設利用者・職員とコミュニケーションをとることができる。
- ③ 学びを深めるために、主体的に取り組むことができる。
- ④ 実習プログラム内容

・初日にはオリエンテーション、施設見学、職員・利用者紹介
・一日の生活の流れ
・福祉用具等の使用方法、取り扱いの説明
・機能訓練の見学
・利用者とのコミュニケーション
・補助業務(食事、入浴、環境整備、排泄関連業務)
・利用者の食事、口腔ケア、衣類の着脱、入浴、移動・移乗の介護を職員指導下で体験
・申し送り参加 カンファレンス見学
・実習記録
・実習反省会

実習中の指導体制・内容

・実習中は、指導者の下、利用者・受講生の安全に配慮し、報告・相談・連絡を密として指導体制をとる。

・指導者は、実習終了にあたっては、実習記録又は、反省会やカンファレンスを実施して実習の振り返りを実施する。

協力実習期間における延べ人数:60 人

**講師情報**

●氏名・略歴、現職、資格は、「科目別担当講師及び講師情報」参照

**実績情報**

年度	研修名	延べ参加人数
平成 22 年度	介護員養成研修 2 級課程 1 回	23 名
平成 23 年度	介護員養成研修 2 級課程 1 回	28 名
平成 24 年度	介護員養成研修 2 級課程 1 回	14 名
平成 24 年度	介護職員基礎研修課程 1 回	8 名

**連絡先等**

●申し込み・資料請求先

株式会社 アイシマ 看護部 担当 野水千栄子・四宮モモ子・綿貫克子

〒 246-0022 横浜市三ツ境166-9

電話番号 : 045-363-8121

FAX : 045-360-3512

●法人の苦情対応者名 管理部長 奥田 貴生

電話番号 : 045-360-6021

FAX : 045-360-6051

●事業所の苦情対応者名 看護部長 野水 千栄子

電話番号 : 045-363-8121

FAX : 045-360-3512